

## 20万分の1地質図幅「夕張岳」

中川 充<sup>1)</sup>・渡辺 寧<sup>2)</sup>・紀藤典夫<sup>3)</sup>・  
酒井 彰<sup>4)</sup>・駒澤正夫<sup>5)</sup>・広島俊男<sup>5)</sup>

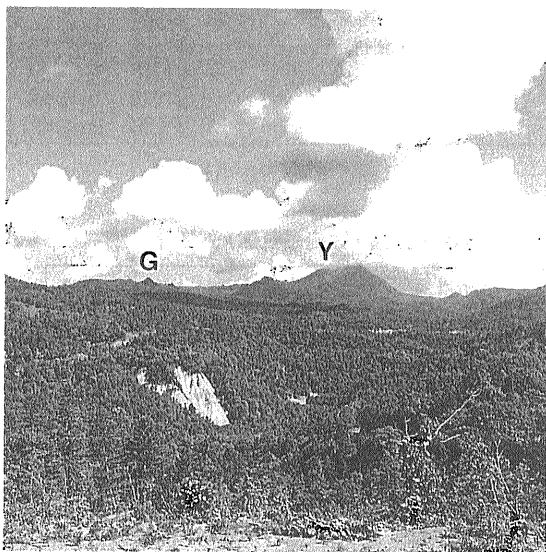
「夕張岳」地質図幅の範囲には、北海道の背骨ともいべき日高山脈と夕張山地が含まれています。これらの山々は富士山や有珠山などの火山とは違い、噴火でできたわけではありません。私達の住んでいる地表は、地球をお饅頭にたとえると表面を覆う薄皮の上にあたります。地球の薄皮を地殻と呼び、地殻の大規模な運動によって皺(シワ)が寄るように盛り上がってできたのがこうした山々なのです。

皺にはいろいろな地球の歴史が刻まれています。皺の元になったのは、1億年以上の大昔(中生代)の海の下地殻とその上(海の底)に貯まってできた岩石が主体なので、プランクトンの一種である放射虫やイカやタコの仲間のアンモナイトの化石を含

んでいます。日高山脈では、海の地殻と陸の地殻の深部同士がくっついてめくれ上がってしまいました。おかげでこれら両方の断面が地表で観察できる世界で数少ない場所の一つになっています。

また、皺が切れてしまって地球の中身であるマントルがはみ出してしまったのが夕張岳で、「蛇紋岩メランジ」を形成しています。奇しくもこの図幅が出版された同じ年に、国の天然記念物として高山植物と共に指定されました。これは、マントルから蛇紋岩が地殻を上昇して来る間に深部の変成岩ブロックを捕まえてきたものです(第1図)。蛇紋岩にはクロムや白金など地殻には少ない貴重な鉱物資源も含まれています。

さらに、皺が寄りすぎて傾き押しつぶさって、根元が切れてしまった所を「ナップ」といいます。近代日本の工業化を支えた炭田開発に伴って行われた精密な地質調査によって、1930年代には西部の夕張炭田でこうした「ナップ」が明らかにされました。そして近年、背骨の部分にも大規模な「ナップ」があることが解ってきました。東の日高帯から西の空知-エゾ帯の上ののっかってしまった「ナップ」の底には地球の潤滑剤である蛇紋岩が分布しています。



### 第1図

砂白金の採れる白金川沿いから眺めた夕張岳(Y)とガンマ岩(G)。どちらもなだらかな蛇紋岩の中に飛び出している変成岩ブロック。左下の白っぽい崖は柔らかい蛇紋岩が崩壊して露出している所。(夕張岳20万分の1)

- 1) 地質調査所 北海道支所
- 2) 地質調査所 鉱物資源部
- 3) 北海道教育大学函館校
- 4) 地質調査所 地質部
- 5) 地質調査所 地殻物理部

キーワード：地質図幅、夕張岳、ナップ、蛇紋岩メランジ、北海道